

[7] - I アルミ圧延

12 / 11 13 / 12

◎伸び率10%以上

● 伸び率0~▲10%

天気マーク: ◎

●

○伸び率 0~10%

●伸び率▲10%以下

1. 企業経営動向（大手4社（日本軽金属（株）、住友軽金属（株）、三菱アルミニウム（株）、スカイアルミニウム（株））

(1) 需要

12年末までは堅調であったが、13年に入ってから米国の景気減速により減少傾向に転じ、現状の需要動向も減少傾向に転じている。内需においては、IT関連部品ではユーザーが生産調整に入ったことや自動車用部品が米国の景気減速をうけて伸び率が鈍化していることにより、減少傾向に転じている。輸出においては、アジア域内における競争の激化や採算性の悪化により、減少傾向となっている。

今後の見通しにおいても、少なくとも13年度前半までは、IT関連産業に回復が見られないと考えており、現状の傾向が続き、減少傾向で推移すると考えている。

(2) 生産・設備稼働

12年末までは、堅調な需要によって高い生産量を示していた。しかしその後、内需において、IT関連部品や自動車用部品の不調を受けて、現在は前年比若干減で推移している。

(3) 企業収益

アルミ圧延主要企業の経営動向（大手4社単体ベース）（単位：億円、%）

	平成11年度	平成12年度	平成13年度(予想)
売上高	5,641	5,780	5,370
営業利益	93	205	(-)
経常利益	0	96	91
純利益	▲88	▲271	66
経常利益率	0.0	1.7	1.2

12年度決算において、売上高は、自動車用部品やIT関連部品需要が好調に推移したことにより、4社合計として前年を上回った。また、経常利益に関しても売上好調や人員整理等のリストラ効果及びこれまでにを行った不採算部門からの撤退により大幅な増益となっている。しかし、純利益においては、リストラに伴う特損の発生により大幅な減益となってしまった。

13年度予想としては、12年度売上を押し上げたIT関連部品や自動車用部品が米国景気の不透明感から、減収と予想している。また、経常利益面においては、売上高減収に伴い、減益を予想している。純利益においては、リストラなどの特損は12年度までに処理を終了させたことから、黒字回復を予想している。

(4) 財務

在庫の圧縮、負債の借換（長期から短期）や前倒し返済など、財務体質改善を行っている。今後においては、不動産・売掛債権の流動化を検討している企業が見られる。

2. 設備投資動向（12年度見込み、13年度計画）

設備投資額（単位：百万円、%）

	11-12共通回答企業		12-13共通回答企業		12/11	13/12
	11年度	12年度	12年度	13年度		
アルミ圧延	17,843	24,612	24,612	24,010	137.9	97.6

(1) これまでの設備投資の推移

11年度までは、最低限必要な維持更新を中心に設備投資を行った。そのため、減価償却の半分まで投資を押さえる企業が見られた。12年度においても、維持更新中心に減価償却内の投資であることに変化はなかったが、多くの企業が減価償却額程度の投資を行った。

(2) 平成13年度の設備投資計画（特に、設備投資抑制（増加）の理由等）

13年度においては、維持更新中心に減価償却額程度の投資を行う傾向に変化はない。しかし、自動車用部品などの成長分野に対する設備新設も一部企業に見られた

3. 長期資金調達・運用動向

(1) 長期資金運用動向

11年度までは、設備投資用や国内関係会社への投融資を中心に資金運用を行ってきた。12年度は、国内関係会社への投融資を大幅に減少させることで、資金運用額は11年度の半分程度となった。13年度においては、国内関係会社への投融資を更に減少させていく。

(2) 長期資金調達動向

資金調達は、これまで同様に減価償却による内部資金が中心である。12年度において、一部株式による調達が見られたが、今後の計画においても減価償却を中心にした資金調達計画である。

（グラフ1：設備投資の前年度比の推移）

